

令和 6 年度 事業報告書

社会福祉法人中蒲原福祉会

〒950-0121 新潟市江南区亀田向陽2丁目6番1号

TEL 025-382-8251

FAX 025-382-8252

目 次

まえがき	1
1 法人の重点目標	1
2 法人が運営する事業	2
3 職員配置の動向	5
4 業務委託等	6
5 年間活動報告	8
6 喀痰吸引等研修	8
7 補助金事業	9
特別養護老人ホーム向陽の里 事業報告書	10
特別養護老人ホーム横雲の里 事業報告書	12
特別養護老人ホームこすど蒼丘の里 事業報告書	14
特別養護老人ホームなかかんの里 事業報告書	16
特別養護老人ホームかめだ本町の里 事業報告書	18
特別養護老人ホームにこやか 事業報告書	20
ショートステイかめだ早通の里 事業報告書	22
デイサービスセンター第2 蒼丘 事業報告書	23
デイサービスセンターリハフィットこうよう 事業報告書	24
グループホームこうよう 事業報告書	25
障害者支援施設あさひ園 事業報告書	26
障害福祉サービス事業フルールこすど 事業報告書	27
障害福祉サービス事業わかばの家 事業報告書	29
障害福祉サービス事業ネクサス・わかば 事業報告書	31
障害福祉サービス事業メイプルかめだ 事業報告書	33
障害福祉サービス事業メイプル・ぷらす 事業報告書	35
地域活動支援センターかめさん 事業報告書	36
四つ葉こども園 事業報告書	37
地域子育て支援センターにこっと 事業報告書	38

まえがき

基本理念『すべての人の笑顔と信頼のために』の実現に向けて、当法人に関わるご利用者・ご家族・地域住民・職員等全ての人が笑顔になれるように、法人基本方針、行動指針を意識しながら職員一同取り組んだ。

1 法人の重点目標

（１）新人採用と人財育成

新人採用ではリニューアルした法人ホームページを活用（企業紹介動画、就職説明会募集、就職フェア等の周知）しながら採用活動を幅広く行った。大学、短大、専門学校、高校を卒業した15名の新卒者を採用できたが昨年に比べ7名少ない結果となった。また、今年度も外国人の採用面接を行い、ミャンマー人3名を令和9年度採用内定、ベトナム人2名を令和10年度採用内定とした。

人財育成については、職種・職位ごとのキャリアパスを完成させ、役職者に法人のキャリアパスについて説明会を行い、周知を図った。しかし、職員全体に浸透させるまでには至らなかった。そのため新たに年間キャリアパス研修計画（職種や職位ごとの研修の他、将来的な職種転換やキャリアアップに向けた研修）を作成した。キャリアパスに沿ってさらなる人財育成に努めたい。

（２）安定した法人運営

毎月の経営会議で月次決算や実行予算等について報告を行い、問題点のみならず良かった点についても理由や原因について話し合いを行った。また、地域のニーズ、近隣施設の情報を収集し、共有を図りながら法人運営に努めた。

今年度から事業計画で目標を数値化したため、以前より目標が明確になり、役職者は数値目標と実行予算の精度を意識しながら運営を行った。施設や事業所により差はあるが、実行予算の精度も少しずつ上がっており、今年度は概ね予想通りの業績を出し、年度末には職員に新たな特別手当である決算賞与の支給を行うことができた。今後も安定した法人運営を行うことで地域やご利用者のみならず、職員も満足のいく法人であり続けたい。

（３）業務改善による効率化

今年度も効率化を目指し業務改善に力を入れ、一定の成果がみられた。ご利用者の重度化に合わせた浴槽（中間浴から特浴）の入れ替え、オムツの種類を検討したことによる夜間の排泄交換回数の削減、パソコンやタブレットを施設内外で活用、見守り機器の増設、園内研修及び入職手続きのオンライン化、職員全員にメールアドレスを付与することで迅速な周知やアンケートに活用する等、積極的に効率化を図った。

高齢者の施設では、ご利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会を立ち上げ、生産性向上に係る加算の取得を行った。

2 法人が運営する事業

令和7年3月31日現在

法人本部	
介護職員等による喀痰吸引等研修	定員 20 人
特別養護老人ホーム向陽の里	
1 介護老人福祉施設	定員 80 人
2 短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業	定員 16 人 障害福祉サービス事業（短期入所・空床利用型）
3 通所介護事業	定員 28 人 介護予防通所介護相当サービス事業 共生型生活介護事業（障がい者向けデイサービス・空床利用型）
4 居宅介護支援事業	
5 生活援助員派遣事業	亀田向陽住宅（新潟市委託事業）
特別養護老人ホーム横雲の里	
1 介護老人福祉施設	定員 50 人
2 地域密着型介護老人福祉施設	定員 20 人
3 短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業	定員 49 人 障害福祉サービス事業（短期入所・空床利用型）
4 通所介護事業・介護予防通所介護相当サービス事業	定員 40 人、土曜・日曜 30 人 共生型生活介護事業（障害者向けデイサービス・空床利用型）
5 居宅介護支援事業	
特別養護老人ホームこすど蒼丘の里	
1 介護老人福祉施設	（定員 70 人）
2 短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業	定員 20 人 障害福祉サービス事業（短期入所・空床利用型）
3 通所介護事業・介護予防通所介護相当サービス事業	定員 35 人、日曜 30 人 共生型生活介護事業（障がい者向けデイサービス・空床利用型）
4 居宅介護支援事業	
特別養護老人ホームなかかんの里	
1 介護老人福祉施設	ユニット型：定員 60 人、従来型：定員 40 人
2 短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業	定員 20 人 障害福祉サービス事業（短期入所・空床利用型）
特別養護老人ホームかめだ本町の里	
1 地域密着型介護老人福祉施設	定員 29 人
2 短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業	定員 10 人
3 訪問介護事業	介護予防訪問介護相当サービス事業 居宅介護・重度訪問介護事業（障がい者向けホームヘルプサービス） 移動支援事業

特別養護老人ホームにこやか
1 地域密着型介護老人福祉施設 定員 29 人
2 短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業 定員 10 人
3 通所介護事業・介護予防通所介護相当サービス事業 定員 25 人、土曜 20 人
ショートステイかめだ早通の里
1 短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業 定員 48 人 障害福祉サービス事業（短期入所・空床利用型）
デイサービスセンター第 2 蒼丘の里
1 通所介護事業・介護予防通所介護相当サービス事業 定員 25 人、月曜～土曜
2 生活援助員派遣事業小須戸大川前住宅（新潟市委託事業）
デイサービスセンターリハフィットこうよう
1 通所介護事業・介護予防通所介護相当サービス事業 定員 35 人
グループホームこうよう
1 認知症対応型共同生活介護 予防介護含む定員 9 人
障害者支援施設あさひ園
1 施設入所支援・生活介護事業 定員 20 人
2 短期入所事業 定員 4 人
3 日中一時支援事業 定員 4 人
障がい福祉サービス事業フルールこすど
1 生活介護事業 定員 18 人
2 就労継続支援 B 型事業 定員 35 人
3 相談支援事業
障がい福祉サービス事業わかばの家
1 生活介護事業 定員 14 人
2 就労継続支援 B 型 定員 45 人
3 日中一時支援事業 定員 6 人
4 相談支援事業 （新潟市指定特定相談支援事業、新潟市委託障がい者（児）等相談支援事業）
障がい福祉サービス事業ネクサス・わかば
1 生活介護事業 定員 40 人
2 就労継続支援 B 型事業 定員 20 人
3 短期入所事業 定員 12 人
4 放課後等デイサービス事業 定員 10 人
障がい福祉サービス事業メイプルかめだ
1 就労移行支援事業 定員 7 人
2 就労継続支援 B 型事業 定員 40 人 主たる事業所（本館）25 人、従たる事業所（2 号館）15 人
3 自立訓練（生活訓練） 定員 13 人
4 日中一時支援事業 定員 3 人

5	就労定着支援事業
6	グループホーム事業定員 14 人（男性 7 人＋女性 7 人）
障がい福祉サービス事業メイプル・ぶらす	
1	就労継続支援 A 型 定員 17 人
2	就労継続支援 B 型 定員 35 人
地域活動支援センターかめさん	
1	地域活動支援センターⅢ型事業 定員 20 人
2	サポート相談事業
四つ葉こども園、地域子育て支援センターにこっと	
1	保育所型認定こども園 定員 109 人（1 号 9 人、2・3 号 100 人）
2	一時預かり事業（拠点園）
3	地域子育て支援拠点事業

3 職員配置の動向

職員の経験、資格、適性等をみながら職員配置を行った。職員全体の年齢層のバランスは良いが、職種により偏りがあるため、各職種において次世代の育成が法人の課題である。また労働人口の減少が見込まれる中、常勤職員採用予定の外国人学生をパート職員として採用し、将来を見据えた配置を行った。

事業所名	常勤	非常勤	派遣	合計
法人本部				
法人本部	9	2	0	11
高齢者事業				
特別養護老人ホーム向陽の里	53	29	0	82
特別養護老人ホーム横雲の里	61	54	0	115
特別養護老人ホームこすど蒼丘の里	53	46	0	99
特別養護老人ホームなかかんの里	52	35	0	87
特別養護老人ホームかめだ本町の里	23	19	0	42
特別養護老人ホームにこやか	26	17	0	43
ショートステイかめだ早通の里	20	17	0	37
デイサービスセンター第2蒼丘	4	9	0	13
デイサービスセンターリハフィットこうよう	6	7	0	13
グループホームこうよう	6	4	0	10
障がい者事業				
障害者支援施設あさひ園	13	8	0	21
フルールこすど	8	19	0	27
わかばの家	15	16	0	31
ネクサスわかば	30	27	0	57
メイプルかめだ	18	16	0	34
メイプルぷらす	12	10	0	22
かめさん	2	4	0	6
保育事業				
四つ葉こども園	16	23	0	39
合計	427	362	0	789

4 業務委託等

委託業務	委託業者（敬称略、順不同）
労務	社会保険労務士水戸事務所
会計	会計監査人 あすの監査法人 税理士法人 さくら総合会計事務所
弁護士	顧問弁護士 しなのがわ総合法律事務所
嘱託医	亀田第一病院 森川医院 こうなん family クリニック 片桐医院 押木内科神経内科医院 清野医院 丸山診療所 堀クリニック 吉田医院 こどもの森クリニック
協力病院	亀田第一病院 新津医療センター病院
協力歯科	かざま歯科クリニック 三浦歯科医院 小林歯科医院 丸山歯科医院 みゆき歯科医院 枝並歯科クリニック 枝並歯科医院
看護業務、訪問看護	ナースパートナー 訪問看護ステーション tete
給食業務	石本商事 日本フードリンク フルールこすど メイプル・ぷらす
弁当配達業務	わかばの家 ネクサス・わかば

	かめさん
講師	齋藤 智美
施設清掃、園舎整備	シルバー人材センター ケイクリーンサービス ほほえみ作業所 就労継続支援 B 型 のびのび フルールこすど わかばの家 ネクサス・わかば メイプルかめだ メイプル・ぷらす
洗濯業務	シルバー人材センター フルールこすど メイプル・ぷらす
宿日直業務	シルバー人材センター

5 年間活動報告

(1) 苦情受付

年間を通して様々な苦情をいただいた。10月に第三者委員会を開催し、苦情内容や対応について報告を行った。その内容については法人のホームページに公開した。今後とも地域に信頼される法人であるために真摯に対応を行っていく。

(2) 情報公開

事業計画、事業報告、苦情処理体制等のサービス提供に関する取り組みと権利擁護に関する取り扱い等の掲示を行い、事業者としての透明性ある運営を行った。また、情報公表サービスや法人のホームページでも情報公開を行い、地域の方々にとって必要な情報の提供を行った。

(3) 新規事業

新潟市亀田地区で閉鎖するデイサービスセンターを購入し、新たに「デイサービスセンターリハフィットこうよう」を6月1日に開設した。軽度者向けのデイサービスとしてリハビリに重点を置きながらニーズに合った支援を行い、地域の社会資源を維持することに貢献した。開設時の定員は25名であったが、利用が少しずつ増え、12月に定員を35名まで上げて運営を行った。

(4) 報酬改定対応

令和6年度報酬改定に対応するため、園長、施設長で勉強会を行った他に、生活相談員、機能訓練指導員、栄養士、サービス管理責任者等、職種ごとに法人内チャットで情報交換を行い、制度の理解に努め、新たな加算の算定を行った。

6 喀痰吸引等研修

研修実施状況	受講者数
6月開講コース（定員20名）	19名

介護現場等における痰の吸引等のニーズや実態を踏まえ、法人内介護職員及び地域の介護職員に専門的な研修の場を提供してきた。昨年度に比べ定員を5名増やしたが、内部受講者が増え、外部受講者は減少している。スクーリング受講者が11名、実地研修のみの受講者が8名、合計19名（内部18名：外部1名）での開講となった。

7 補助金事業

(単位：円)

高齢事業	結核	燃料高騰	キャリア	減免	人材確保	処遇	歳末	合計
向陽の里	54,166	20,000			2,437,458	1,120,899		3,632,523
横雲の里	78,333	20,000			3,364,525	1,461,033	150,000	5,073,891
こすど蒼丘の里	50,240	20,000			2,625,233	1,251,112		3,946,585
なかかんの里	67,980		100,000		3,186,680	1,367,065		4,721,725
かめだ本町の里		50,000		23,000	1,198,578	557,725		1,829,303
にこやか					1,270,316	565,641	56,475	1,892,432
かめだ早通の里					919,371	453,154		1,372,525
第2蒼丘					260,638	113,919		374,557
リハフィットこうよう					171,656			171,656
グループホームこうよう					318,851	143,740		462,591
合計	250,719	110,000	100,000	23,000	15,753,306	7,034,288	206,475	23,477,788

【凡例】

結核：新潟市 結核予防費補助金
 燃料高騰：新潟市 燃料費高騰対策支援
 キャリア：新潟市 介護職員等キャリアアップ支援事業
 減免：新潟市 減免助成金
 人材確保：新潟県 介護職員人材確保・職場環境改善等支援
 処遇：新潟県 処遇改善補助
 歳末：新潟市社会福祉協議会 社会福祉協議会歳末助け合い

(単位：円)

障害事業	結核	燃料高騰	人材確保	処遇	地活	共同生活	合計
かめだ本町の里		50,000	166,787	80,176			296,963
あさひ園	4,166		1,211,575	514,868			1,730,609
フルールこすど		20,000	625,974	341,530			987,504
わかばの家		20,000	583,504	263,474			866,978
ネクス・わかば			2,044,285	886,141			2,930,426
メイプルかめだ			646,726	296,350		901,600	1,844,676
メイプル・ぶらす			370,862	181,932			552,794
かめさん					12,695,385		12,695,385
合計	4,166	90,000	5,649,713	2,564,471	12,695,385	901,600	21,905,335

【凡例】

結核：新潟市 結核予防費補助金
 燃料高騰：新潟市 燃料費等高騰対策支援
 人材確保：新潟県 介護職員人材確保職場環境改善補助
 処遇：新潟県 処遇改善支援
 地活：新潟市 地活Ⅲ型運営補助金
 共同生活：新潟市 共同生活援助事業所支援事業補助

(単位：円)

保育事業	延長	一時	物価	性被害	すこやか	支援	合計
四つ葉こども園	566,200	2,751,000	141,700	62,000	28,000	8,639,000	12,187,900
合計	566,200	2,751,000	141,700	62,000	28,000	8,639,000	12,187,900

【凡例】

延長：新潟市 延長保育補助金
 一時：新潟市 一時預かり補助金
 物価：新潟市 物価高騰対策支援
 性被害：新潟市 性被害防止対策補助
 すこやか：新潟市 すこやか補助金
 支援：新潟市 支援センター補助金

(単位：円)

その他	防災改修	ノーリツ	日本財団	真柄財団	合計
かめだ本町の里	8,630,000				8,630,000
わかばの家		2,000,000			2,000,000
ネクス・わかば				727,000	727,000
メイプル・ぶらす			2,250,000		2,250,000
合計	8,630,000	2,000,000	2,250,000	727,000	13,607,000

【凡例】

防災改修：新潟市 防災改修等支援事業補助
 ノーリツ：ノーリツぬくもり財団 給湯器リサイクル事業助成
 日本財団：車両セレナ助成
 真柄財団：真柄福祉財団 施設整備助成

特別養護老人ホーム向陽の里 事業報告書

1 施設の重点目標

・働きやすい職場づくり

明るく気持ちよい挨拶や積極的にコミュニケーションをとっていくことで、良好な関係の構築や働きやすい環境作りを目指した。欠員による職員確保が困難な状況が続き苦労したが、施設全体で協力し相談や意見交換がしやすく話しやすい環境を作ることができた。今後もコミュニケーションを大切にし、他者理解の重要性と当たり前にお互いを称賛し合える環境を作り上げていく。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
特養（従来） 定員 80 人	稼働率	95.0%	95.6%	0.6%	年間入退居 入居 31 人 退居 29 人
	利用者	76.0 人/日	76.5 人/日	0.5 人	
短期入所 定員 16 人	稼働率	92.0%	86.8%	△5.2%	年間延利用者 介護 4,840 人 障害 225 人
	利用者	14.7 人/日	13.9 人	△0.8 人	
通所介護 定員 28 人	稼働率	75.0%	70.1%	△4.9%	年間延利用者 介護 6,382 人 障害 785 人
	利用者	21.0 人/日	19.6/日	△1.4 人	
居宅介護 最大 176 件	稼働率	80.1%	76.0%	△4.1%	年間総件数 介護 1,450 件 予防支援 501 件 サービス A 163 件
	件数	141 件	134 件	△7 件	

3 事業実績

<特養>

1 1月から4か月ほど疥癬による感染症が流行したことで、通常とは別に業務負担が増え大変苦労した。また感染症流行の影響により、新規入居までに期間を要した月があったが、前年度に比べ退居から入居までの日数の平均が減少したことで事業計画書で設定した目標稼働率を達成することができた。

<短期入所>

長期ご利用者の退所や入院が多く、入れ替えに時間を要した。また、2月にはコロナウィルスの感染拡大で、2週間の受け入れ中止や入院者が出たことも稼働に大きく影響し、事業計画書で設定した目標稼働率を達成することができなかった。

<通所介護>

上半期は好調だったが、11月からは、入院者、老健の入所、短期入所の利用が増え、稼働が低下し、事業計画書で設定した目標稼働率を達成することができなかった。

<居宅介護>

令和7年1月までは職員4名体制で行い、退職予定者が1名いたため、2月からケアマネジャー未経験の2名を採用し、6名体制になった。退職予定者は、12月頃からは新規を持たず調整し、2月から採用した2名は、ケアマネジャー未経験のため、急に件数を増やすことは難しく、事業計画書で設定した目標稼働率を達成することができなかった。

4 その他

- ・納涼祭で岩万燈保存会、たるっこクラブの2団体が来園され、ご利用者はとても喜ばれていた。
- ・建物・備品の老朽化、設備の故障により、備品の購入や修繕などが多かった。

特別養護老人ホーム横雲の里 事業報告書

1 施設の重点目標

・職員の倫理意識と接遇の向上

定例会議において、各部署内の現状の情報共有を行い、問題等があればその場で話し合った。さらに接遇やマナー、虐待・身体拘束を含めた不適切ケアについて注意を促し、速やかに各部署へ伝達し職員同士の意識を高めることで、大きなトラブルが起こることはなかった。また園内研修を行うことで、職員の能力や意識の向上を行い、安心・安全なサービスを提供するとともにサービスの質の向上につなげることができた。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
特養（従来） 定員 50 人	稼働率	96.0%	95.6%	△0.4%	年間入退居 入居 17 人 退居 18 人
	利用者	48.0 人/日	47.8/日	△0.2 人	
特養(地域密着) 定員 20 人	稼働率	95.0%	97.9%	2.9%	年間入退居 入居 6 人 退居 6 人
	利用者	19.0 人/日	19.6 人/日	0.6 人	
短期入所 定員 49 人	稼働率	91.8%	88.9%	△2.9%	年間延利用者数 介護 15,581 人 障害 331 人
	利用者	45.0 人/日	43.5 人/日	△1.5 人	
通所介護 定員 40 人	稼働率	80.0%	78.8%	△1.2%	年間延利用者数 介護 10,276 人 障害 25.5 人
	利用者	30.0 人/日	28.8 人/日	△1.2 人	
居宅介護 最大 209 件	稼働率	80%	70.3%	△9.7%	年間総件数 介護 1,567 件 予防支援 610 件 サービス A252 件
	件数	167 件/月	147 件/月	△20 件	

3 事業実績

<特養（従来）>

新規ご利用者のうち、50%以上が横雲の里の短期入所をご利用されていた方だったため、スムーズに入居ができ、空床を少なくすることができた。11月ごろから長期入院者が増え、2月～3月にコロナウイルス感染症が流行したことで事業計画書で設定した目標稼働率を達成することができなかった。

<特養（地域密着）>

申込者が少ないが、良いタイミングで申込みがあり入居に繋ぐことができた。ただし、

横雲の里従来型特養への申し込みの継続を希望される方も少なくなく、地域密着型特養の申込者の減少に対する対策が継続課題である。長期入院の方もいたが、落ち着いていることも多かった。

<短期入所>

長期ご利用者を積極的に特養への入居につなげたことで稼働率が伸び悩み、事業計画書で設定した目標稼働率を達成することができなかった。特養と連動しながらできる限り空床を出さないことが重要だと考えている。

<通所介護>

上半期は好調だったが、下半期は入院、施設入所、大雪でのキャンセル等の影響で稼働が急落し、事業計画書で設定した目標稼働率を達成することができなかった。

<居宅介護>

昨年に比べ阿賀野市包括支援センターからの新規依頼が減っている。また新規は予防が多く介護の件数が伸び悩み、事業計画書で設定した目標稼働率を達成することができなかった。

4 その他

ボランティアについては、習字（青柳様）、フルート演奏（堤様）、レクダンス（チューリップの輪）、絵手紙（にじいろ）の受け入れを定期的に行った。

地域の方々と関わりを持ち、交流やコミュニケーションを通し、ご利用者への満足感やサービス向上を図り、生活の質（QOL）を上げる手助けをすることができた。また、職員の業務負担軽減にもつながり、今後も同様に受け入れを行っていく。

特別養護老人ホームこすど蒼丘の里 事業報告書

1 施設の重点目標

「職員の倫理意識向上と言葉掛けや立ち振る舞いの向上」

園内研修、毎月の定例会、カンファレンス等で接遇や虐待、身体拘束等の確認や説明を行い、職員の意識向上に努めた。

各部署のリーダーからの報告や一般職員との個人面談により、ご利用者に対して及び職員間においての不適切な言動が確認された場合は容認せず、随時、当該職員との面談を行い、改善を行った。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
特養 (ユニット) 定員 70 人	稼働率	95.0%	96.4%	1.4%	年間入退居 入居 21 人 退居 21 人
	利用者	66.5 人/日	67.4 人/日	0.9 人	
短期入所 定員 20 人	稼働率	95.0%	104.7%	9.7%	年間延利用者 介護 7,191 人 障害 457 人
	利用者	19.0 人/日	20.9 人/日	1.9 人	
通所介護 定員 35 人	稼働率	85.0%	79.0%	△6%	年間延利用者 介護 9,763 人 障害 107 人
	利用者	29.1 人/日	27.0 人/日	△2.1 人	
居宅介護 最大 264 件	稼働率	84.1%	65.9%	△18.2%	年間総件数 介護 1,892 件 予防支援 599 件 サービス A212 件
	件数	222 件人/月	174 件/月	△48 件	

3 事業実績

<特養>

入退居が続くこともあったが、早めの事前面談を行い、スムーズに入居することができた。また、入院者も一気に増えることがあるため、日頃からご利用者の体調管理と病院との連携に努めた。

<短期入所>

実利用者数を維持できるよう意識し、新規獲得を行い、年間を通して安定した稼働をあげることができた。特養空床も活用し利用が必要な方への支援ができた。

<通所介護>

4 月～5 月は五月雨式にコロナウィルスの感染者が出た。感染時のキャンセルのみでな

く、その後も体調が戻らず入院や入居、死亡などにより多くの利用中止者が出た。またご利用者本人だけではなく、介護者の感染により利用できず稼働への影響が大きかった。

12月～3月は週3回以上の定期ご利用者の入院が多く、稼働に大きく影響した。

<居宅介護>

ケアマネジャー1人が療養休暇に入ったことにより、10月から5人となった。ケースを振り分けたため新規受け入れが難しい状況になり、15件断ることになった。新年度は受け入れを再開する予定である。

目標件数はケアマネジャー6人での計算。下半期は5人での稼働により目標とは大きな差となった。

4 その他

- ・ボランティアの受け入れを徐々に開始し、ギター演奏、マジックショー、日本舞踊、フラダンスの方が来所した。また施設全体行事として秋祭りを行い、ご利用者に楽しんでいただくことができた。
- ・いりり喫茶はまだ再開できていないが、以前来ていただいていた方へ依頼し、徐々に再開していく。

特別養護老人ホームなかかんの里 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・サービスの質の確保

平常時及びコロナウィルス感染の発生時（８月、１２月、２月）でも各ユニット、各部署で協力してサービスを提供することができた。メイプル・ぷらすに清掃洗濯リネン等の業務を委託することで介護業務に専念することができた。

不適切な介護について、毎月のユニット会議及び代表者会議で検討し、スピーチロック等を行わないように意識づけをすることができた。今後も継続したい。

安全対策担当者を中心に事故防止に取り組んだ結果、服薬落薬事故は減少した。事故発生時は速やかに各部署に周知し、再発防止に取り組んだ。また、職員の事故防止については、安全推進者を中心に職員駐車場での一時的停止、交通安全、外出時の感染予防の啓発に取り組んだ。また、居室内のベッド位置の変更や洗濯室の整理整頓をしたことで作業動線が改善され、介護をしやすい環境ができた結果、腰痛で休む職員が減少した。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
特養（従来） 定員 40 人	稼働率	96.0%	96.7%	0.7%	年間入退居 入居 9 人 退居 10 人
	利用者	38.4 人/日	38.7 人/日	0.3 人	
特養（ユニット） 定員 60 人	稼働率	96.0%	91.3%	△4.7%	年間入退居 入居 19 人 退居 22 人
	利用者	57.6 人/日	54.8 人/日	△2.8 人	
短期入所 定員 20 人	稼働率	96.0%	99.1%	3.1%	年間延利用者 介護 7,131 人 障害 117 人
	利用者	19.2 人/日	19.8 人/日	0.6 人	

3 事業実績

<特養（従来）>

ユニット型特養に比べ、入居申込が多く、目標を達成できた。しかし、従来型は隣室が同性に限られることが次期入居者選定の弊害になっている。男性待機者が減少しており、時期をみて女性居室化を図ることで稼働率向上を目指す。

<特養（ユニット）>

新規ご利用者のうち短期入所から入居された方が 4 名、短期入所から入院され、退院後からの入居が 3 名あったが、空床を埋めるまでにはいかなかった。退居から入居までの期間が縮められなかったことや次の入居が決まらないベッドの発生が稼働率低下の原因である。今後は、入居申込の確保と早めの事前面接が課題である。

＜短期入所＞

特養と短期入所の相談員が連携した結果、特養の空床利用を428床使用し、稼働率上昇の要因となった。居宅事業所へ空き情報を伝達するとともに、リハビリをサービスする等の特長もアピールし、新規ご利用者の獲得に努めた。

4 その他

- ・特殊浴槽（ストレッチャー浴）を1台追加したことで、入浴業務をスムーズに行うことができた。（特浴を使用する短期入所ご利用者の獲得には至っていない）
- ・厨房委託業者変更に伴い、令和7年3月からユニットでの炊飯と盛り付け、食器洗浄業務をやめることができた。それにより、ご利用者と接する時間が増え、各ユニットで業務の改善を進めている。
- ・事業継続計画（BCP）に基づき、近隣福祉施設と地域住民との停電非常食訓練を実施した。新たな課題を発見することができた。また、厨房業者とも非常食の提供、備蓄について準備を進めた。
- ・4月の花見行事のみ実施することができた。今後はご利用者のニーズに合わせて実施していきたい。
- ・面会制限を段階的に緩和した。正面玄関のガラス越し面会から、縄文ホールでのアクリル板越し面会となり、さらに居室での面会まで行うことができた。電話での予約制は継続しているものの、時期を見て予約なしの自由面会を目指したい。

特別養護老人ホームかめだ本町の里 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・安定・継続的な介護を通し、地域に貢献する

新規のご利用者で、不安を抱えて入所された方も、職員のきめ細かな対応により、安心感を抱いていただき、家にいるよりも落ち着く等のお声をいただいた。

また、ご家族との関係も良好に保ち、かめだ本町の里は安全・安心な施設との評価をいただき、地域の皆様にも好意的に受け止められている。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
特養 (ユニット) 定員 29 人	稼働率	95.0%	94.0%	△1.0%	年間入退居 入居 11 人 退居 11 人
	利用者	27.6 人/日	27.0 人/日	△0.6 人	
短期入所 定員 10 人	稼働率	95.0%	89.3%	△5.7%	年間延利用者 3,257 人
	利用者	9.5 人/日	8.9 人/日	△0.6 人	
訪問介護	訪問時間	850 時間	603 時間	△247 時間	延利用者数 847 人
	利用者	80 人/月	71 人/月	△9 人	

3 事業実績

<特養>

目標値に達しなかった要因としては、待機者が少なく迅速に入居に至らなかったこと、また、介護度 4 以上のご利用者は体調面が不安定なため、入れ替わりが多かったことが挙げられる。また、入院者も多く早めに看取り契約に至らず、そのまま病院でお亡くなりになるケースが多かったことも稼働が低かった要因である。

<短期入所>

目標値に達しなかった原因としては、コロナウィルス等の感染症や体調不良によりキャンセルが多く、それを埋められなかったことと、ご利用者が特養に入居したことが挙げられる。また、特養の空床を利用できなかったことも稼働を下げた要因である。

<訪問介護>

身体介護のご利用者は訪問時間が多いため、入院になると稼働に影響した。ご利用者の入院があった際に、中止か否かの見極めができず、新規利用開始を躊躇せざるを得ず、目標に達しなかった。

4 その他

- ・毎月季節行事を行い、ご利用者の笑顔を多く引き出せた。
- ・働きやすく風通しの良い職場環境を目指したことにより、離職者が少なかった。
- ・短期入所と訪問介護の両方を利用されている方がいて、相互にサービスの連携を図れた。
- ・移動販売のとくし丸や地域のお茶の間の場を提供する等、地域に溶け込めるよう協力した。
- ・感染対策を行いつつ部屋での面会も開始し、少しずつ日常を取り戻している。ご家族からも、部屋の方が落ち着いて面会できると好評を得ている。

特別養護老人ホームにこやか 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・職員の倫理意識向上と言葉かけや振る舞いの向上

園内研修で接遇や虐待防止・身体拘束予防について振り返り、会議で検討の機会を設けることで、適宜部署の現状把握につなげることができた。ご利用者やご家族の意思を尊重しながら、情報共有し支援することができた。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
特養(ユニット) 定員 29 人	稼働率	95.0%	96.5%	1.5%	年間入退居 入居 13 人 退居 12 人
	利用者	27.5 人/日	27.9 人/日	0.4 人	
短期入所 定員 10 人	稼働率	93.0%	97.4%	4.4%	年間延利用者 3,594 人
	利用者	9.3 人/日	9.7 人/日	0.4 人	
通所介護 定員 25 人	稼働率	72.0%	67.2%	△4.8%	年間延利用者 5,011 人
	利用者	17.5 人/日	16.3 人/日	△1.2 人	

3 事業実績

<特養>

目標は達成したが、入居の申し込みが少ない状況が続いている。また、日常生活継続支援加算を取得することが困難になってきており、各居宅事業所にも声をかけているが、問い合わせも少ない。待機者獲得のため、引き続き働きかけを行っていく。

<短期入所>

特養空床部分を短期入所として積極的に活用した。下半期にかけて、定期ご利用者が減少し、ロングショート利用者の増加により実利用者数が減っている。ユニット型個室の料金面の負担から利用につながりにくいが、空き状況に合わせてご利用者数を増やしていくよう努めている。

<通所介護>

体調不良による入院や契約終了があったため上半期は稼働が大きく落ちた。目標には届かなかったが、9月から10月にかけて新規利用や利用回数が増えたことにより、少しずつ稼働が上がった。

4 その他

- ・各部署で気候の良い時期の外出行事を計画し実行でき、参加された方には大変好評だった。

- ・ボランティア主体での喫茶を、短期入所・通所介護から再開している。普段関わっている職員だけではなく、地域のボランティアの参加により、交流の輪が広がっている。会話や歌など、喫茶の日が大きな楽しみの一つになっている。令和7年度からは特養の参加も開始する。
- ・その他、寸劇や歌・手品等、語り部、カラオケ、フラダンスのボランティア訪問の受け入れを行っている。
- ・移動販売とくし丸に月1回来てもらうことで、買い物支援や楽しみにつながっている。

ショートステイかめだ早通の里 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・職員全員に共通する明確なルールを作り生産性の向上につなげる

職員の共通ワードとして【3M】（「ムリ」特定の人に業務が集中しない・「ムダ」必要がないことはやめよう・「ムラ」誰がやっても同じように）を設定し、重要度の低い業務や簡略化できる業務があれば、職員自ら積極的に見直しを行った。

当日の勤務表の一番上の職員が、その日のかめだ早通の里のリーダーとして、施設内で起きる出来事・災害等の危機について想定し、施設全体を見ながら業務を遂行した。多くの職員が、当日のリーダーを行うことで共感的理解が深まり、スキルアップにつながっている。

ご利用者の権利擁護につながるよう、介護職員等の負担を減らしできるだけストレスのない環境を整えることに務めた。ご利用者の衣類に名前をつけたり繕ったりしてくれるボランティア2名が毎週月曜日に来てくれることも、職員の負担軽減につながっている。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
短期入所	稼働率	93.0%	88.0%	△5.0%	年間延利用者
定員 48 人	利用者	45 人/日	42.0 人/日	△3.0 人	13,854 人

3 事業実績

年間を通して、感染症が広がり数回クラスターが発生したことは、大きく稼働に影響したが、感染症の対策に職員が挑み続けたことで、広がりを最小限に留めることにつながった。

4 その他

- ・当日担当職員が勤務に入る時「本日のご利用者数と今月の目標」をインカムで当日出勤の職員に伝えることを継続し、ケア会議で目標の達成度を共有した。このことを受け、ケア会議で目標が、『「ムリ・ムダ・ムラ」の意味をしっかりと理解すること』と、『日々の業務で当たり前にやっていること1つ1つに問題意識を持とう』に決まった。
- ・上司との定期面談は、施設のビジョンや目標を伝え、職員の状況や課題を認識し、職員自身が成長を実感する場として、また自分の意見や考え方を安心して話せる場として一定の役割を果たしている。
- ・地域社会の一員として、地域住民・小学校・保育園と連携しながら、地区の防災訓練や行事への参加を施設全体で取り組んだ。

デイサービスセンター第2 蒼丘 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・一人ひとりに合ったサービスの提供と働きやすい環境作り

毎日の夕礼や毎月の会議等において、ご利用者の状況・ニーズの把握に努め、共通のサービスが行えるよう取り組んだ。ご利用者にとって本当に必要とする援助なのかを、職員各自が考えながらサービスできていた。

小規模施設のため、職種を越えて業務にあたらなければならない。業務改善を含め、新しいことに取り組むことが難しかったが、一人ひとりが意見を言える環境作りに努めて改善に繋げていく。人財育成については十分に行うことができず課題が残った。また、離職者はいなかった。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
通所介護	稼働率	83.2%	78.4%	△4.8%	年間延利用者
定員 25 人	利用者	20.8 人/日	19.6 人/日	△0.7 人	6,001 人

3 事業実績

4 月に職員のコロナウィルス感染拡大により営業を6日間休止した。その影響もあり5月は低迷し、新規利用の相談が少なかった。7月からは新規のご利用者が増え稼働が上がったが、10月以降、相次ぐ入院、施設入所等による利用中止が続き、稼働が下がり続けた。サービス内容の改善を図ったが、情報発信の頻度が少なかったこと、また実行に移さなかったことが低迷の原因と考えられる。今後は引き続きサービス内容の改善を進めると共に、情報発信の頻度を増やし、さらに第2 蒼丘の知名度を上げるよう努めていく。

4 その他

事業所内でのコロナウィルス感染の拡大により、ボランティアの受け入れに対しては慎重となり開始できなかった。次年度は相撲甚句、ピアノ等のボランティアの受け入れを開始する予定。今後も受け入れの幅を広げ、ご利用者が楽しめる、満足できる時間を提供したい。

デイサービスセンターリハフィットこうよう 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・質の高いサービス提供

ご利用者の要望に耳を傾け、満足いくリハビリや支援を提供できるように、また職員間の情報共有ができるように声を掛け合うことに努めた。職員間の情報共有は職員個人のやり方等があり、そのやり方や業務のすり合わせ等情報共有の難しさを痛感した。今後は、お互いの立場や考えを理解し、個々の役割に応えられるように、コミュニケーションを図ることでチーム力向上に繋げていく。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
通所介護	稼働率	84.0%	91.6%	7.6%	延利用者数
定員 25 人	利用者	21.0 人/日	22.9 人/日	1.9 人	4,628 人

3 事業実績

6月から開所し定員25人からスタートした。毎月新規のご利用者が増え、定員を10月に30人、12月には35人に変更した。軽度の方で週1～2回の利用を希望される方や半日利用のニーズが多かった。8月は、お盆で稼働が落ちたが、その後は新規のご利用者が増えた。12月は入院や雪の影響でキャンセルが多かった。

4 その他

建物の購入時には気づかなかった破損や機器の故障が多々あったが、その都度、修繕や機器の入れ替えを行いながらご利用者に満足いただけるよう運営を行った。

グループホームこうよう 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・個別ケアの充実

グループホームで積極的に取り組んでいる“共に行う家事”について、その日の体調やご本人の意向、得意なこと、やりたいことなどを汲み取りながら、全てのご利用者がそれぞれの形で活躍できるよう支援を行うことができた。ケース記録や写真に残すことで、ご家族にも様子をお伝えすることができた。個別リハビリや個別外出に関しては、職員の提案やご本人の希望に沿って支援できた部分もあったが、全てのご利用者に対して計画的に行うところまで達することができなかったため、再度、来年度の重点目標に挙げ、計画的に取り組むための手段等を確立していく。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
認知症対応型 共同生活介護 定員 9 人	稼働率	98.0%	98.8%	0.8%	年間入退居 入居 2 人 退居 2 人
	利用者	8.8 人/日	8.9 人/日	0.1 人	

3 事業実績

入院者は 2 名でいずれも入院日数は少なかった。退居から入居への移行を計画的に行い、空室日数を少なくすることができ、稼働率が計画より良い数字となった。

4 その他

地域交流や外出の機会を設ける取り組みとして、日々の散歩やごみ捨てに加え、近隣住民の避難訓練や行事への参加、図書館や認知症カフェの利用、ボランティアとの交流などを行った。

障害者支援施設あさひ園 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・働きやすい職場づくり

明るく気持ちよい挨拶や積極的なコミュニケーションをとっていくことで、良好な関係の構築や働きやすい環境作りを目指した。欠員による職員確保が困難な状況が続き苦労したが、施設全体で協力し相談や意見交換がしやすく話しやすい環境を作ることができた。今後もコミュニケーションを大切にし、他者理解の重要性と当たり前にお互いを称賛し合える環境を作り上げる。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
施設入所支援 定員 20 人	稼働率	98.0%	98.0%	0%	年間入退居 入居 2 人 退居 2 人
	利用者	19.6 人/日	19.6 人/日	0 人	
短期入所 定員 4 人	稼働率	100%	122.6%	22.6%	年間延利用者 1,790 人
	利用者	4 人/日	4.9 人/日	0.9 人	
日中一時支援 定員 4 人	稼働率	50.0%	45.0%	△5.0%	年間延利用者 663 人
	利用者	2 人/日	1.8 人/日	△0.2 人	

3 事業実績

<施設入所支援>

退居はあったが日を空けず入居ができ、入院も少なく安定した稼働であった。体調管理とスムーズな入居を行っていく。

<短期入所>

利用希望が多く稼働の達成はできたが、希望の調整に苦労した。また、1泊利用の方が多く、入退所が多くなるため現場の負担も大きかった。

<日中一時支援>

希望に沿うことができないケースがあり、事業計画書で設定した目標稼働率を達成できなかった。

4 その他

- ・納涼祭で岩万燈保存会、たるっこクラブが来園し、ご利用者はとても喜ばれていた。
- ・建物・備品の老朽化、設備の故障により備品の購入や修繕が多かった。

障害福祉サービス事業フルールこすど 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・ご利用者が望む暮らし作り

ご利用者の体調変化や気持ちの不安定さが見られた時は、ご家族、関係各所と迅速に連絡を取り合い、いつでも相談しやすい関係作りに努めた。

ご利用者・ご家族のニーズを聞き取る機会を必ず作り、ニーズの変化に対応した個別支援計画書を作成し、その計画内容を直接支援につなげる流れを改善した。

行事や土曜日開所において事前アンケートを取り、ご利用者・ご家族の「これをやりたい」「こんな経験をして欲しい」というご希望に添えるような起案作りに努め、実行できた。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
生活介護 定員 18 人	稼働率	95%	100.6%	5.6%	年間延利用者 4,818 人
	利用者	17.1 人/日	18.1 人/日	1.0 人	
就労継続 支援 B 型 定員 35 人	稼働率	95%	99.8%	4.8%	年間延利用者 9,361 人
	利用者	33.3 人/日	34.9 人/日	1.6 人	
相談支援 センター フルール	計画と モニタ リング	27.1 人/月	(者) 23.8 人/月 (児) 8.7 人/月 計 32.5 人/月	5.4 人	3 月末計画相談 利用者数 (者) 54 人 (児) 37 人

3 事業実績

<生活介護>

8 月にコロナウィルス感染者が出たため一時的に稼働は下がったが、それ以外は祝日開所日も利用は安定していた。新規ご利用者はなく、3 月末に 1 名退所されたが、以前からご希望のあった医療的ケアの必要な方の利用日を増やし、ニーズにお応えすることができた。

<就労継続支援 B 型>

感染症の流行もなく、稼働は安定していた。土曜開所や平日行事の参加希望者も多く、「お仕事」と「楽しみの時間」のメリハリある支援をすることができた。また、職員もご利用者の楽しみの時間の様子を知ることで、ご利用者の全体像の把握につながり、個別性のある支援を考えることができた。しかし、平均工賃は前年度よりも下がったため、工賃向上がご利用者の生活の質の向上につながることを再認識した。

<相談支援>

1人体制ということもあり新規受け入れの調整をしてきたが、4月から二つの体制加算を申請し、収支改善に努めた。ノートパソコンに入れ替えたことで移動中の隙間時間の有効活用ができ、働き方改革につながっている。

4 その他

- ・特別支援学校の実習希望や空き状況の問い合わせが多く、空きがなくお断りしている状況であった。そのため令和7年度に定員を増やす予定である。特に医療的ケアが必要な方の利用希望が多いため、令和6年度は看護職員を募集し採用に繋がったが、定着せず1か月未満での退職となった。
- ・事業計画に挙げていた施設外就労や外出行事は、コロナ禍前の状況に戻っている。

障害福祉サービス事業わかばの家 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・基本に立ち返った業務の見直しとサービスの質の確保

法人で最も歴史ある就労継続支援B型・生活介護の事業所として、基本的なことを確実にこなし、サービスの質において派手さはないが、安心してご利用者を任せられる揺るぎない施設を目指して取り組んできた。

職員研修や各部署の会議においてこの重点目標を意識した意見交換を重ねるとともに、伝え方と聞き方等の基礎的なコミュニケーションスキルの向上と、お互いに報告・相談がしやすい環境づくりに取り組み、ミスやトラブルが発生しにくい土壌の形成に努めた。全職員の仕事に対する姿勢や業務上求められる共通認識の水準も高まり、施設としての実力が向上したと考えている。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
就労継続支援 B型 定員 45 人	稼働率	95.5%	94.9%	△0.4%	年間延利用者 11,493 人
	利用者	43 人/日	42.8 人/日	△0.2 人	
生活介護 定員 14 人	稼働率	100.0%	101.2%	1.4%	年間延利用者 3,811 人
	利用者	14 人/日	14.2 人/日	0.2 人	
日中一時支援 定員 6 人	稼働率	2.0%	0.9%	△1.1%	年間延利用者 14.5 人
	利用者	0.1 人/日	0.1 人/日	0 人	
相談支援事業	計画と モニタ リング	110 件/月	(者)93 件/月 (児)9 件/月 計 102 件/月	△8 件	3 月末計画相談 利用者 (者)278 人 (児) 35 人

3 事業実績

<就労継続支援B型>

ご利用者全体の平均年齢が上がったこともあり、状態が不安定になるケースが増えた。また、体調を崩して休むと復帰まで時間を要することが多く、稼働に影響が出た。長期的には生活介護との定員の割合の見直しも必要となっている。

<生活介護>

環境整備や支援の向上により安定した利用につながった。地域のニーズも高く問い合わせも寄せられるが、受入枠の上限に達していることから対応できていない。今後はわかば

の家の就労継続支援B型から移行するご利用者も出てくる可能性があることから、対策を検討していく。

<日中一時支援>

新規ご利用者の獲得はせず、継続利用中の2名に対応している。

<相談支援>

これまでの地域の関係機関と連携を密にした活動に加え、主任相談支援専門員の資格を3名が取得して条件が整ったことから、令和7年3月から大きな加算を獲得して質の高い支援と収支改善を両立することができた。一方で、試行の段階からおよそ10年間に渡り受託してきた新潟市の基幹相談支援センター秋葉について、今年度の契約満了をもって終了した。

4 その他

就労作業の新たな柱となり得るガス給湯器の回収・解体・分別作業を軌道に乗せることで、ご利用者の能力開発とやりがいの向上、平均工賃の引き上げを果たすことができた。またこの作業をきっかけに新たな労働力も確保し、施設全体の体制の強化につながった。

さらに、各種補助金の獲得により施設内の環境整備を進めることができ、次年度以降の安定した就労作業の基盤を固めることができた。

障害福祉サービス事業ネクサス・わかば 事業報告書

1 施設の重点目標

・居心地の良い空間を創造する

障害特性を理解し、個々に「居心地の良い空間」を提供できるよう、職員の資質の向上を目指し、毎月の内部研修はもちろんのこと、一日かけて研修を行う日を設けた。その中で虐待防止・身体拘束の研修やＩＰ法を用いた事例検討会なども行い、職員の資質の向上に努めた。児童支援についても、「家庭」「教育」「福祉」の連携・協働ができる関係性を築き、個々のニーズに沿った支援が行えるよう、学校を含めた関係機関が集まったケース会議に参加したり、送迎時に学校やご家族との情報共有を行ったりしている。

職員の働きやすさの向上の為、各部署の定例会議において業務改善を行い、問題があればその場で検討した。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
生活介護 定員 40 人	稼働率	99%	101.6%	2.6%	年間延利用者 10,891 人
	利用者	39.6 人/日	40.6 人/日	1.0 人	
就労継続支援 B 型 定員 20 人	稼働率	99%	90.4%	△8.6%	年間延利用者 4,882 人
	利用者	19.8 人/日	18.1 人/日	△1.7 人	
短期入所 定員 12 人	稼働率	143%	139.6%	△3.4%	年間延利用者 6,098 人
	利用者	17.1 人/日	16.7 人/日	△0.4 人	
放課後等 デイサービス 定員 10 人	稼働率	98%	98.9%	0.9%	年間延利用者 2,641 人
	利用者	9.8 人/日	9.9 人/日	0.1 人	

3 事業実績

<生活介護>

5 月と 10 月に 2 名が就労 B 型より生活介護へサービス変更となった。冬期間に数名のご利用者が全く通所できなくなることもあったが、ご利用者が増えたこともあり目標値よりも実績が上回る結果となった。

<就労継続支援 B 型>

5 月と 10 月にサービス変更によりご利用者が 2 名減少したが、3 月中旬には新規ご利用者 1 名を受入れることができた。しかし、事業計画書で設定した目標稼働率を達成することができなかった。

<短期入所>

キャンセルの穴を埋めるために、新規ご利用者の受入れや声掛けを行い稼働率向上に努めたが、利用日数が多いご利用者の施設入所、感染症や風邪、冬期間でキャンセルが多く順調に稼働が伸ばせなかった。また新潟市や関係機関などからの緊急受入れの依頼にも対処したが、それでも目標としている稼働率まで届かなかった。

<放課後等デイサービス>

概ね計画通りの実績となった。以前から利用実績の少なかった土曜日に新規ご利用者を3名受入れ稼働率を上げることができた。

4 その他

- ・以前よりスピカグループの床が軋んだり、水が上がってきたりする症状があったため、真柄福祉財団の施設整備助成金を活用し、床の張替工事を行った。
- ・車両についてはハイエース2台の走行距離が増えて、修理費用が多くなっているためキャラバン（中古）に入れ替えた。また、福祉車両（車イス1台乗車）の発注を行い、令和7年5月末に納車予定である。令和7年2月には送迎中に車両が故障し、停車した。走行距離も20万キロを超えており、修理費も高額のため代わりの軽自動車を1台購入した。

障害福祉サービス事業メイプルかめだ 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・ご利用者に対する手厚い個別支援体制

定期的な面談を行い、支援についての意向を聴き取り反映したことにより、ご利用者と支援者が同じ方向を向いた支援が実施できた。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
就労移行支援 定員 7 人	稼働率	90.0%	91.7%	1.7%	年間延利用者 1,727 人
	利用者	6.3 人/日	6.4 人/日	0.1 人	
就労継続支援 B 型 定員 40 人	稼働率	95.0%	90.2%	△4.8%	年間延利用者 9,724 人
	利用者	38.0 人/日	36.1 人/日	△1.9 人	
自立訓練 (生活訓練) 定員 13 人	稼働率	80.0%	39.6%	△40.4%	年間延利用者 1,381 人
	利用者	10.4 人/日	5.1 人/日	△5.3 人	
日中一時支援 定員 3 人	稼働率	1.0%	0%	△1%	年間延利用者 0 人
	利用者	0.03 人/日	0 人/日	△0.03 人	
就労定着支援	件数	6.0 件/月	6.1 件/月	0.1 件	年間延利用者 73 人
共同生活援助 定員 14 人	稼働率	97.0%	94.0%	△3.0%	年間延利用者 4,803 人
	利用者	13.5 人/日	13.1 人/日	△0.4 人	

3 事業実績

<就労移行支援>

概ね計画通りの結果となったが、初年度利用の方が多くにより就労実績が低下してしまう結果となった。

<就労継続支援 B 型>

秋口からの利用中止者が想定を超え、冬季のコロナウィルス感染も重なり、計画が未達成となってしまった。休日開所時の作業等により作業時間を増やしたことで、平均工賃が向上した。

<自立訓練>

定員を増加したことで登録者も増加したが、毎日通所に至らない方が多く大幅に計画を下回った。但し、職員配置については他のサービスに比べ配置人数が少ないため、収支は問題ない状況であった。

<日中一時支援>

数年に渡り利用が無く、事業継続は難しいため事業廃止を予定している。

<共同生活援助>

入院者が出たことにより事業計画書で設定した目標稼働率を達成できなかったが、自己負担額の見直しにより、収支状況は好転している。

4 その他

- ・リハフィットこよう開始に伴う委託作業受注や法人内作業の作業単価見直し、弁当・カフェ価格の変更を原資として、ご利用者の工賃向上に取り組んできた。目標数値を達成したことにより、令和7年度の就労継続支援B型基本報酬単価が向上するため、成果があった。
- ・建物・備品の老朽化、車両事故・故障、パソコンの入替により予定以上に支出が増加した。今後は、計画的に購入や修繕を実施し、施設運営に過剰な負荷がかからないようにしなければならない。
- ・赤い羽根共同募金助成事業に車両購入助成で応募し、令和7年度に車両の購入を予定している。

障害福祉サービス事業メイプル・ぶらす 事業報告書

1 施設の重点目標

・施設の位置付けと支援の方針の具体化による経営の健全化

これまでの活動や作業、支援の考え方や姿勢を見直し、ご利用者が定着して活動先施設から求められる労働力を安定して供給できる施設を目指し取り組んできた。

制度や経営面について職員研修で理解を求めるとともに、グループワークを繰り返し行い、施設の位置付けを踏まえた支援の方向性を模索してご利用者の成長を目指す一方で、行動面で課題が大きなご利用者には利用方法の見直しを提案するなどして、支援のあり方に大きく切り込んだ1年となった。

この取り組みにより契約終了となるご利用者も少なくなかったが、次年度の発展に向けた体制を整えることができた。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
就労継続支援 A 型 定員 15 人	稼働率	80.0%	73.3%	△6.7%	年間延利用者 2,959 人
	利用者	12 人/日	11.0 人/日	△1.0 人	
就労継続支援 B 型 定員 45 人	稼働率	80.0%	79.8%	△0.2%	年間延利用者 8,172 人
	利用者	36 人/日	30.3 人/日	△5.7 人	

3 事業実績

＜就労継続支援 A 型＞

精神障害者の1年後の就労定着率は一般的に50%といわれており、新規ご利用者の獲得が多かったが契約終了も多かった。また、メイプル・ぶらす内の就労継続支援B型に移行したケースもあったことから、目標には遠く及ばなかった。

＜就労継続支援 B 型＞

施設外就労が容易ではないご利用者への支援として、施設内作業の開拓と作業環境の整備に取り組んだ。ご利用者の特性に配慮した活動を提案することで、従来よりも対応できるご利用者層の幅を広げることができている。

4 その他

施設の位置付けの具体化の一貫で、これまでのご利用者向けパンフレットを新しくし、「私たちの担当業務は高齢者や障害者の生活を支える重要なものである」という点を協調し、厳しい面もあり責任も伴うが、やりがいがありそれに見合った賃金や工賃を得られる仕事であることを明示した。これを今後のご利用者獲得と一貫性のある支援につなげていきたい。

地域活動支援センターかめさん 事業報告書

1 施設の重点目標

- ・ご利用者の社会参加を応援する

社会との繋がりを持つために様々な企画を実施しているが、毎回ほぼ同じメンバーとなっている。興味があることは何なのか、どうしたら参加できるのか、今後も職員全員でメンバーを交えながら考え実施していきたい。

2 達成数値

実施事業		計画	実績	差	備考
地域活動支援センターⅢ型 定員 20 人	稼働率	75.0%	54%	△21%	延利用者数 2,656 人
	利用者	15 人/日	10.8 人/日	△4.2 人	
サポート相談 定員 45 人	件数	50 件/月	29 件/月	△21 件	

3 事業実績

＜地域活動支援センター＞

毎月複数名の見学者が来られ、利用開始となる方もいるが、多くの方が安定して通所することが難しいため、苦慮している。

＜サポート相談＞

地域活動支援センターご利用者が、自宅から行う相談が中心となっており、年々外部からの相談は減少している。

4 その他

特別事業として、久々に県外（群馬県）での研修を実施した。ご利用者からは大変好評であり、今後も特殊な事情がない限り実施したい。

四つ葉こども園 事業報告書

1 施設の重点目標

「子どもの最善の利益（幸福）の追求」

一人ひとりの子どもの最善の利益を追求するために、全職員が高い倫理観と専門性を持ち、養護と教育を一体的とした教育・保育に努めた。

一人ひとりの子どもの育ちや気持ちに寄り添いながら遊びと生活を通して成長・発達を支援した。また、乳児は担当制の中で愛着関係を結び、あたたかく受容的で応答的な保育を行った。

2 達成数値

実施事業	計画	実績	差	備考
こども園 定員 109 人	119 人	119 人	0 人	
一時預かり	2 人/日	0.5 人/日	△1.5 人	年間延利用者 123 人

3 事業実績

<こども園>

計画通りの人数を確保することができた。今後も少子化等による定員割れ対策等に注力していきたい。

<一時預かり>

マンツーマン対応が必要な乳児の利用が多く実績が低迷した。拠点園としての役割を果たせるよう改善していきたい。

4 その他

昨年導入した保育 ICT システムを活用し、更なる職員の負担軽減及び保護者の利便性向上に努めることができた。

地域子育て支援センターにこっと 事業報告書

1 施設の基本事業

- ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ・子育て等に関する相談、援助の実施
- ・地域の子育て関連情報の提供
- ・子育て及び子育て支援に関する講習等の実施（月1回以上）

乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を提供し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行った。地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援することができた。

2 達成数値

実施事業	計画	実績	差	備考
子育て支援センター	20 人/日	24 人/日	4 人	
子育て相談・援助	5 件/月	6.7 件/月	1.7 件	延利用者数 80 人

3 事業実績

<支援センター>

計画を上回る親子にご利用いただいた。今後も地域の子育て支援に努めていきたい。

<相談・援助>

一人ひとりの相談に丁寧に対応した。

4 その他

老朽化した空調設備の更新工事を行う予定であったが、令和7年5月に実施する。